

久工大と九地整九州技術事務所 安全なまちづくりへ協定 職員ら講義、現場で技術体験も

久留米工業大（久留米市上津町）と九州地方整備局九州技術事務所（同市）は、地域づくり分野の協働に関する協定を結んだ。来年度、工学部に新設するコースのカリキュラムでの連携を中心に、防災や安全なまちづくりへの貢献を目指す。

同大は2027年4月、工学部建築・設備工学科内に都市デザインコースを開設する。新設の背景を、日野伸一学長は「自然災害の深刻化や社会インフラの老朽化を受け、持続可能なまちづくりをデザインできる人材の育成が必

要」と説明。卒業後は技術職の公務員や建設関連企業への就職などを想定する。

協定を活用する一つが同コースの教育だ。防災、減災対策や都市計画を学ぶ科目で、事務所職員ら実



協定を結んだ久留米工業大の日野伸一学長（中央）と九州技術事務所の新保二郎所長（左）

務経験者による講義、道路や河川の建設現場の見学や技術体験を設ける予定。実践的な学びを学生に提供する。

大学としても協定に基づき、地域課題の解決に向けた共同研究や技術開発に取り組む。9月17日に久留米市役所であった締結式で、日野学長は「学生が現場の生きた教材で学び、将来に向き合う場になってほしい」。新保二郎所長は「双方の強みを生かして地域社会の安心安全の向上につなげたい」と話した。

（杉野如海）